

# I 目 的

島

本島のまわりには珊瑚礁が発達していて大小様々な礁湖が形成されている。その礁湖の有効な開発利用は本島沿岸漁業振興上の一つの課題である。

多種多様な生物群集と豊かな光によって、織りなされる礁湖独特の美しい景観については、ここで述べるまでもない。大洋の中の孤島の、限られた波静かな水域であることも相俟って、礁湖は伝統的な各種漁業が営まれている重要な生産の場でもある。

礁湖漁場はわが国ではあまり例のない水域でもあり、生物生産の場として、また礁湖性の有用な魚介類についても同様に研究実績は少ない。しかしながら礁湖漁場においても漁場整備開発等の事業が計画されすでに一部実施されているものもありより有効な事業の成果を実現するためには、関係知識の集積と技術の確立が急がねばならない状況下にある。

礁湖漁場における優占魚種はニザダイ類やアイゴ類等の雑食性魚類である。アイゴ類は中でも生産量の多い重要な魚種である。

礁湖漁場の高い基礎生産力を最も有効に生物生産に利用する方法は魚類に限れば、アイゴ等雑食性魚類の積極的な生産方式を礁湖漁場に導入することにあると考えられる。

したがって本研究ではアイゴ等雑食性魚類について基礎的知見を解明することによって、礁湖域に展開できる増養殖技術を確立することを目的とする。

なお餌料要求の巾が広く広塩性であるティラピヤ類についても可能性が大きいので、併せて検討することにした。

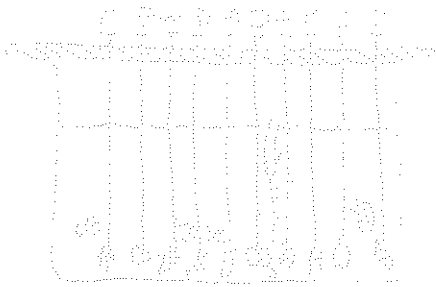


図1 養魚装置の概略図

（以下は本文の続きと思われるが、画像の範囲外のため詳細な内容は読み取れない。本文の構成は、目的の記述、背景の説明、研究の必要性の述べ、具体的な研究内容の記述、結論のまとめの順である。）